

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O195800024		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホームみどり野の郷		
所在地	北海道 空知郡 南幌町栄町1丁目1番20号		
自己評価作成日	令和3年11月5日	評価結果市町村受理日	令和3年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=O195800024-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様に安心・安全・楽しい生活を援助する為に、職員一丸となって高齢者の尊厳を支える個別ケアを支援しています。・安心～みどり野の郷では、母体であるみどり野医院があり、24時間の支援体制を確保しています。また、同建物内に老健、訪問看護、居宅事業所、サービス付高齢者住宅があり、医師、看護師、OT、PT、ケアマネ等他職種が存在し住み慣れた地域で生活する為に入居者様の健康管理を維持できるように相談・協力ができる環境となっています。・安全～グループホーム内はオール電化で対応し火災が起きにくい環境となっています。また、万が一の火災となっても、建物内に消火器、散水栓、スプリンクラー等を事常備しており被害を最小限にできます。また、消防、警察が目の前にあり、早急な対応が可能な立地となっています。・楽しい～季節によってさまざまな行事を行っていますが、コロナ対応の為、外出は受診のみとなっている。ご家族様との面会も規制があり、コロナの状況によって調整していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみどり野の郷」は、役場や消防署などがある南幌町の中心部に立地している。母体の医療機関と隣接した建物で、バス停やコンビニエンスストア、農協スーパーなどもあり生活環境が整備されている。室内は対面式のキッチンから広々とした居間が見渡せる造りで、絵画や観葉植物を配置して家庭的な温もりが感じられる共用空間になっている。市町村との連携では、役場と電話やメールでの情報交換の他、運営推進会議の書面会議で意見をもらったり、法人グループホームの会議に担当者が参加するなど日頃から協力関係を構築している。管理者は、話しやすい職場環境の整備を目指して職員の意見や提案を運営やケアに反映させると共に、職員の得意な部分を活かして利用者の似顔絵作成やおやつ作りをするなど楽しい日々を送れるように全職員で向上心を持って業務に取り組んでいる。医療面では、バイタルに変化があればすぐに母体病院に搬送するなど充実した対応を行っており、利用者や家族の安心につながっている。家族アンケートを実施したり、2か月ごとの「ほのほの通信」の発行、毎月手書きのメッセージを入れて個別写真を送付するなど家族が安心できるように配慮している。全職員でそれぞれの利用者に寄り添いながら、可能な限り現在の生活が継続できるように温かな支援を行っているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解・実践の為、職員の名札裏に理念を記載し日々の生活支援に活かしている。重量事項にケア理念を記載し説明をご家族様に行っている。	「支え合い・豊・安らぎ」をテーマに、地域社会の一員としての生活を支援するという、地域密着型サービスを意識した事業所独自の理念を作成しリビングに掲示している。職員は業務の中で確認し、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、日々の生活の様子、行事の様子は電話、個人おたよりやほのぼの通信などで入居者様の様子をお伝えしている。	感染症流行前は、南幌神社の子供神輿が来たり学童保育の子供たちと交流を行っていた。利用者と一緒に近隣のお店に買い物に出かけることもあった。感染症の収束状況を見ながら地域交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ対応の為、面会は規制している。同一建物に通所や居宅支援事業所がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を行っていたが、コロナ対応の為、集まりは中止とし、書類作成と南幌町あいくるへ状況報告している。	感染症流行のため書面会議を開催し、利用者の様子や職員の内部研修報告を行っている。役場担当者の意見やアドバイスを議事録に記載し、家族や民生委員に送付している。年間テーマの設定は、今後の開催時に検討したいと考えている。	今後の会議再開に向けて、議事録と一緒に家族や地域住民に役立つ情報資料などを送付し、家族の意見収集につなげるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者、地域包括支援センターの職員と常に情報交換できる体制になっている。3ヶ月に1回、町内グループホーム連絡会議は、コロナ対応の為、中止している。	管理者は、電話やメールで利用者の体調報告や入居希望者の情報交換をしている。感染症蔓延時は、役場から手袋や消毒液の支援について連絡を受けている。町内グループホーム会議に役場職員が参加することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の11項目について常に意識できるようにスタッフルームに掲示しています。法人の内部研修を中心に行っている。月に1回身体拘束について話し合いをおこなっている。年2回研修を行っている。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、禁止行為11項目をスタッフルームに掲示している。毎月身体拘束チェックシートで対応を確認し、年2回外部事例に沿って勉強会を実施している。外部研修受講後は報告研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を中心に行っている。参加した内容はグループホーム内で伝達し全員が周知できるようにしている。		

グループホームみどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象となる入居者様はいません。必要となる方については、関係者にその都度説明を行なっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は契約書・重要事項説明書に沿って説明し、質問を伺い確認しながら行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で苦情委員会を設立。意見や要望を汲み取る為、意見箱を設置してある。グループホームでは、アンケートを郵送し意見を反映している。	職員対応や生活環境、サービスなどの項目で毎年家族アンケートを実施している。家族の意見や要望は支援経過に記録している。毎月、写真に手書きのコメントを添えて個別のお便りを送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや日常業務の中でも話し合いしやすい環境を整えている。また、ホーム内会議や随時カンファレンスを行い、職員間での意見交換を行なっている。行事、委員会等の役割を分担している。	管理者は話しやすい職場環境の整備を目指し、普段から職員の意見や提案を聞き取り運営やケアに活かしている。年2回個別面談も行っている。職員は利用者担当の他、得意分野を活かして係を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や業務達成を年2回評価行なっている。面談も年2回行い、勤務形態や労働時間など個人要望尋ね働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修にできる限り参加できるようにシフトの調整を行ったり、ホーム内会議で研修内容を確認し参加できなかった職員へ周知を行なっている。新人職員には経験に応じてレクチャーの期間や内容を設定。その日の担当者を予め決めて対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回、定期的に町内のグループホーム管理者や職員が集まり、情報交換を行っていたが、コロナ対応の為中止。法人内の合同会議も中止していたが、一部の会議は再開を始めている。		

グループホームみどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様と面談を行い、健康状況やADLの確認、困りごとや要望の聞き取りを行なっている。また、今までの生活スタイルが維持できるように随時ご本人様の状況を観察、お声掛けにて確認をしている。センター方式(暮らしの情報)を活用。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、困りごとや不安なこと、要望について聞き取りを行なっている。また、プラン開示の際も、意見や要望を意識して行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で今まで使用していたサービス事業者からの情報提供により必要な支援の把握、検討に努めている。また、法人内にある老健や病院等の連携や情報交換している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事やお誕生日会の飾り付け等、趣味活動を職員と一緒に行うことで、役割や充実感を感じて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお手紙で最近のご様子をお伝えしている。その際に身体状況や精神状況の変化についても報告を行い、ご家族様と理解に差がないように努めている。面会規制中の為、体調の報告等は丁寧に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対応の為、面会規制の協力をご家族様にお願ひして知人など施設の取り組みを伝えご理解を頂いている。	携帯電話で友人や家族と話す利用者もいる。機種変更で使い方に迷っている時は、スムーズに電話できるように職員が支援している。感染症流行前は、家族と一緒に南幌温泉に行ったり自宅に帰る利用者もいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出の支援、食事の席、活動の際は利用者様の関係性に配慮しています。また、リビングでは、くつろげるように家具の配置を工夫しています。		

グループホームみどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の方向性について情報提供や関係機関との連携をはかり、ご本人様やご家族様が不安にならないようにご相談させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や様子を生活記録に記入するよう努め、思いや意向を意識した個別のケアプランを実践している。意向の把握が困難な場合はご家族様と相談して検討している。	介護度が高くなり、表情や仕草から思いや意向を読み取ることが多くなっている。6か月ごとにセンター方式シート(D-1)を更新しているが、暮らしの習慣や趣味、嗜好の情報は十分とはいえない。	センター方式シート(D-1)を利用して習慣や趣味、嗜好などの情報も記録し、介護計画の見直しに活かすよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネとのやりとりや利用していた事業所の職員からの情報収集、ご家族様にご協力してもらい、センター方式(暮らしの情報)を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様が自分に合った生活を過ごす為に、病状に合わせバイタル測定、精神・身体状況の変化を申し送り等で経過把握に努めている。また、定期的に医師へ相談している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に全職員で評価を行い、意見を反映し、サービス担当者会議を開催している。ご家族様には電話にて入居者様の状態を伝え、プランに反映している。	来訪時や電話で利用者の現状を詳細に伝え、家族の意向を聞き取っている。計画作成担当者を中心に各職員の評価と家族の意向を基に6か月ごとに介護計画を作成している。新規利用者は1か月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って実践を行い、生活記録へ記入。変化や対応方法の変更時は特記事項へ記入したり、印でわかりやすいように工夫している。日々の申し送りで情報共有し、経過観察行い、プラン更新時や変更時に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師、看護師、リハビリ課、栄養課、相談課へニーズに合わせて相談やアドバイスを頂き、連携に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は学童交流の継続や避難訓練時には消防など地域の方々の協力をいただいていたが、コロナ対応後は地域との関わりが無くなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望は入居前にお伺いしている。提携医療機関に月1回の受診を職員が付き添いしている。提携医療機関以外の受診はご家族様の対応をお願いしている。精神科受診は職員が医師に日々の生活の様子を手紙にて伝えている。	事業所対応で、全員が協力医療機関を受診している。家族と専門医を受診する時も殆ど職員が同行し、健康状態を伝えて適切な医療支援につなげている。受診記録と投薬記録は、別ファイルで個別に整理している。	

グループホームみどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、訪問看護ステーション、協力医院へ状態報を行なっている。夜間や休日、体調不良時は電話にて相談や指示を受けることができる。協力医院の看護師に診てもらえることができる。必要に応じ医師の指示のもと訪問看護の利用を行なっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、病院側との情報交換を随時行い、早期退院ができるように努めている。また、入院前や退院後に訪問看護を活用することで、入居者様が環境の変化を軽減しながら治療をできるように病院関係者の関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様へ説明、意向を伺っている。重度化した場合はご本人様やご家族様や医師と相談できる体制を作っている。	利用開始時に「重度化に関する対応指針」に沿って、24時間医療行為が必要になった時は事業所での対応が難しいことを伝えている。経口摂取が困難になってきた時に家族の意向を確認し、主治医と共に方針を検討する旨も伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の初期対応マニュアルや管理者や医療機関への連絡手段について周知している。また、実践を身につけられるよう法人の研修や外部研修に参加できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ対応の為、消防の立ち入り、地域の方々の見学等は中止し、GH単独でおこなっている。	感染症流行のため、利用者や夜間の火災を想定した自主訓練を行っている。地震時のケア別対応をマニュアルなどに綴り、定期的に確認したいと考えている。職員の救命講習も計画的に進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシー配慮した言葉かけや対応に努めている。	接遇に関する内部研修を行っている。管理者との面談で振り返りの機会を設け、日々のケアに活かしている。個人記録などは目の届かない所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの際に思いを察したり、引き出せるような関わり方を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に沿えるよう日課や予定を変更して柔軟な対応に努めている。調整が難しい際はご本人様に説明を行い時間や曜日を改めることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容はコロナ対応の為、一時中止していたが、現在は再開している。理美容の方々には、感染予防の為、マスク、ガウンを着用して頂いている。		

グループホームみどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい形態やにがてな食材は代替えで対応。食事形態は常食、きざみ食、ペースト食といった個々の状態に合わせた形態で提供している。	法人の管理栄養士作成の献立を使用している。誕生日にはオードブルやちらし寿司、赤飯などを楽しんだり、牛乳プリンや桜餅、クレープなど利用者と職員と一緒に作るおやつも食事の楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の嗜好に合わせた飲み物や食材で必要量が摂取できるように支援。できる限り常食を摂取できるように義歯調整や咀嚼・嚥下状況を観察、体調不良など一時的な低下は最小限にできるように随時検討している。栄養摂取不足な入居者様には、栄養補助食品で補うこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行なっている。個々に応じ声掛けや見守り、介助を行なっている。歯科受診は中止していたが、緊急性の高い方から再開となっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を生活記録に記入。個々の排泄パターンを把握し、排泄誘導している。トイレの場所が解りやすいように表記。必要に応じ2名介助を行い、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。また、パットやおむつの使用は最小限にしている。	自立している利用者もいる。夜間も可能な限りトイレでの排泄を支援している他、自立に向け状況に合わせた排泄用品を使い分けている。2名介助の利用者も様子を見て1名での介助にすることで、利用者本人のできることを活かすなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り自然な排便を行う為に、細目な水分補給と毎日の体操、オリゴ糖やイージーファイバーなど下剤以外も活用。必要に応じて訪問看護師、医師と相談し便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に合わせて、曜日の変更やゆっくり入浴できるよう時間の調整を行なっている。	日曜日以外1人あたり週2回の入浴支援を行っている。利用者の状態に応じてシャワー浴の時もある。声かけの仕方を工夫したり、入浴剤の利用、好みの湯加減にするなど一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や疲労度に合わせ休息している。また、就寝や起床時間は生活習慣やその時の状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報にて確認。内服変更時は生活記録の特記や送りノートに記入。副作用や症状の変化を医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や得意なことを日々の生活で行えるようにしている。家事や運動、活動(貼り絵や裁縫、塗り絵など)室内レク中心に行っている。		

グループホームみどり野の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対応前は季節の外出行事や天候や個々の希望に応じた外出の支援を行っていたが、現在は、受診対応のみとなっている。	感染症流行前は、地域の店での買い物、南幌神社や町内の桜を見ながら散歩を行っていた。現在は受診の際に積極的に外気に触れる機会を設けており、感染症の収束状況に応じて以前のような日常的な外出の機会を増やしていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していることで安心される方はご家族様と本人様へ説明のもと所持金3000円までとして自己管理して頂いている。ご自分での支払いが難しい方は職員が買い物を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のとりつなぎを行う等、利用したい時に電話ができるようになっている。ご家族様やご親戚にお手紙や年賀状のやり取りができる様、ご家族様に御協力を頂きながら個別に対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけ、換気や温度調整を行い、快適に過ごせるよう配慮している。また、季節の花や飾り付けを行い、四季を感じられる空間作りに努めている。	回廊型で、対面式キッチンから見渡せるリビングは落ち着いた配色でゆったりと過ごすことのできる空間になっている。エアコンや加湿器を使用し、快適に過ごすことができる。絵画や観葉植物、季節の行事に合わせた手作りの飾りを施しており、季節感と家庭的な温もりを感じることができ、利用者は安心して過ごせる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士で過ごせるように、ソファの配置や食事の席を配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた家具を持参して頂き、ご家族様の写真や活動で作成した作品等思い思いの物を置いて頂き、ご本人様にとって落ち着ける空間となるようにしている。	セントラルヒーティングが備え付けられており、使い慣れたタンスや収納家具、冷蔵庫やテレビなど好みの物を持ち込んでいる。誕生日プレゼントや家族写真などを壁に飾っている利用者もあり、温かみのある、居心地のよい居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札をつけ、わかりやすいようにしている。浴室は複数手すりが設置させ、個々に対応できるようになっている。トイレや廊下も手すりが設置されている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみどり野の郷

作成日：令和 3年 11月 26日

市町村受理日：令和 3年 12月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のご家族様の参加、意見が少ない中、コロナ禍の為、集まりがさらに難しくなっている。	会議に参加できなくても、意見を取り入れる仕組みを構築していく。	運営推進会議のテーマを決め、ご家族様に伝える。会議後、話し合った内容を伝えるだけではなく、話し合った内容に対し意見を記載して頂く。	R4.4月～ R5.3月
2	23	介護度が高くなり、趣味・趣向などがケアプランに反映が難しくなっている。	少しでも、趣味・趣向を取り組んでいく。	センター方式(D1)を利用し6ヵ月に一回更新していく。介護計画の見直しに活用していく。	R4.4月～ R5.3月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。